

米軍機事故 くり返すな!

厚木爆同

【発行】

厚木基地爆音防止期成同盟

発行責任者 大波 修二

事務所 大和市桜森3-5-3

フロント1F

TEL 046-240-7450

FAX 046-261-5615

bakudou@kanagawa.email.ne.jp



知る権利と自由を奪う「秘密保護法」に反対（大和駅前）



2014年新年あけましておめでとうございます。

今年こそは航空機の爆音と墜落の恐怖から解放された年にしたいものです。

暴走する安倍政権に歯止めを

基地周辺の町にとって安全保障情勢は厳しいものがあります。政治的には衆参両院で過半数を占めた自公両党の右翼的な安倍政権は、昨年の臨時国会で一気に暴走を始めました。昨年12月衆参両院での特定秘密保護法案の強行採決、米国を含む中国・韓国の懸念を無視した靖国神社公式参拝の強行です。国際協調に基づく「積極的平和主義」のもとに戦争への道を走り始めました。

この様な状況は、私たちが平和で静かな空を求め、基地負担の軽減を反動的な政府・米軍に迫る闘いを、より困難とすることが予想されます。

具体的には昨年の臨時国会で設置された「国家安全保障会議」での「中期防衛力整備計画」の検討です。この計画によると仮想敵国を中国・北朝鮮として、これまでの専守防衛から一転して「統合機動防衛力」と言う攻撃型へと大転換しました。

その内容は来年度予算から5年間で総額25兆円をつぎ込み、垂直離着陸機MV-22オスプレイ（17機）、新型ステルス戦闘機F-35（28機）、滞空無人偵察機（3機）等、敵国に攻め込むのに十分可能な新型兵器の

「戦争への道」許さない 平和な暮らし取り戻そう!

厚木基地爆音防止期成同盟委員長 大波 修二

購入を決めています。この暴走の行きつく先は、国民・市民が人間らしく平和に暮らす自由よりも国家が優先される社会、つまり戦争への道であることは確かなことです。それを絶対許すわけにはいきません。

困難はねのけ運動の前進を

私達、厚木爆同の基本的な任務は、基地監視で軍事基地の危険性を暴露し、基地縮小・基地撤去に向けての運動を進め、基地負担の軽減を勝ち取ることにあります。

裁判勝利と日本の平和を

第四次厚木爆音訴訟団長 藤田 栄治



みなさん新年おめでとうございます。私は昨年の定期総会で、委員長の役を辞し大波新委員長に爆同運動の後を託し、いまは第四次訴訟の責任者として裁判の勝利に向けて頑張っています。現役中はいろいろ

町田市議会議員選挙

谷沢和夫さん
(爆同町田支部長)
を推薦

2月16日告示、23日投票で町田市の市長選挙、市議選挙が行われます。

爆同では1月の執行委員会で、爆同町田支部長を務める谷沢和夫さんの推薦を決定しました。会員の皆さんのご支援をお願いします。

谷沢和夫さん プロフィール
1952年生まれ、25歳で町田市議に当選、現在7期目
町田市つくし野在住 爆同副委員長、第四次訴訟団町田支部事務局長など

減を勝ち取ることです。しかしこの運動が、昨年末に成立した秘密保護に抵触する可能性があるとするかどうか。注意深く慎重に闘いの道を探る必要も出てきます。

困難な闘いですが、市民の健康と平和な暮らしを取り戻すために、様々な角度からの運動を展開することが必要です。当面の問題として、いつ墜落するかかわからないMV-22オス

協力を戴いてきましたこと、お礼を申し上げます。

裁判は、いよいよ本年4月に横浜地裁の判決が出されることになりました。今度の裁判で私たちが最も力を入れてきた課題は、爆音そのものを軽減させるための「飛行差し止め請求」に明確な司法の判決を出させることにあります。過去の判決はいずれも「厚木基地の爆音は、違法状態にある」とした判断を示しながら、飛行差し止めについては、十分な審理もされず、また納得のいく説

明もないままに却下されてきました。この司法の論理的な矛盾、及び腰な判決を何としても今度の裁判で正したいと思っています。

飛行差し止めの勝利判決を勝ち取れば、爆音問題解消に大きな展望を開くことになるでしょう。それは私たち厚木基地だけではなく全国の反基地運動に大きな弾みをつけることにもなります。そんな夢を持ちながら、いま判決をまねに飛行差し止めを求める署名運動に取り組んでいます。

安倍政権のもとで、憲法改悪の動きが急速に進んでいます。裁判勝利と爆同の運動は日本の平和と憲法を守る道につながります。この一年にも頑張ってください。

をふり返り新たなスタート

2013年厚木爆同活動記録 一



問題を学んだ厚木爆同第1回学習会

ため、爆音被害地域の家庭のNHK受信料を、爆音加害者である国が全額肩代わりすることを求め、受信料の支払いを拒否する運動を続けています。

しかし最近の裁判で「受信機を設置した者は契約の義務があり受信料を払う必要がある」という判決が出たため、運動が停滞しています。

テレビが聞こえないー

爆音被害地域の受信料全額免除を



活発に意見交換した訪問支部会議(上:海老名 下:綾瀬)

会員の声を大切にー

爆同運動強化めざす訪問支部会議を開催

会員の声を反映した組織運営をめざすため、訪問支部会議を開催しました。この取り組みは、本部役員が厚木爆同の全支部に足を運び、会員と交流を深め、出された意見や要望を活動に反映させる目的で行われました。

6月から8月の約2カ月間に10支部(大和南2支部を除く)を訪問し、会員拡大や活動強化について貴重な意見と要望をいただきました。今後継続的に開催し、爆同運動の強化に活かしていきます。



「飛行差し止め実現」を叫び横浜地裁に向けデモ行進する原告団



墜落の恐怖現実ー

へリ墜落部品落下徹底した安全管理を

違法な爆音なくせー

今度こそ「飛行差し止め」実現の判決を

第四次厚木爆音訴訟は、横浜地裁に提訴以来5年9ヶ月を経て、昨年9月2日に結審し、今年4月に判決が出される見通しです。厚木爆同は訴訟団を支援し、この裁判を通じて「人口密集地にある厚木基地の危険性」「騒音により基地周辺住民が多大な健康被害を受け、健全な生活が奪われていること」「違法な騒音の被害を解消するため飛行差し止め請求を認めるべきだ」との主張を展開してきました。こうした私たちの訴えを実現するため、判決にむけ爆同会員・第四次訴訟団が一体となって署名活動を行っています。



第四次訴訟勝利を誓う結審報告集会



厚木爆同は、航空機の爆音によってテレビの音がかき消され、まともな放送サービスが受けられないことを確認しました。

新たな爆音被害と墜落事故の恐怖をもたらすオスプレイの厚木基地飛来とP-1配備を阻止するため、基地監視行動を強化するとともに、在日米軍や防衛局への抗議

要請行動を精力的に取り組みました。

しかし昨年12月、三浦半島に厚木基地所属のヘリコプターが墜落し、新年早々にも綾瀬市の住宅密集地に米戦闘攻撃機の部品が落下するなど、恐れていた事故が繰り返されています。私たちは早期の事故原因究明と住民への公表、再発防止策と安全管理が徹底されるまで一切の飛行を中止するよう、抗議の声を上げていきたいと思います。

原町田・上草柳の米軍機墜落事故から五〇年

今年、原町田・上草柳に米軍機が落ちて、多くの死傷者を出した悲惨な事故からちょうど五〇年になります。

原町田の事故は、一九六四年四月五日、午後四時半頃、嘉手納基地から厚木に向かう米軍戦闘機が、原町田の市街地の洋服店に墜落、死者四名（倒壊家屋で圧死三名、散乱部品の直撃で一名）重軽傷者三十二名、民家七戸全焼、七戸半壊というものでした。

現場は原町田駅に通じる繁華街の隣接地だが、当日はガス工事のため通行規制があったので被害甚大には至らなかった。遠距離飛行で残余燃料が少なく、機体の空中分解もなかったため被害範囲が限られたのが不幸中の幸いだったようです。なお、乗員は事故直前パラシュートで脱出し無事米軍病院に収容されたそうです。

同日十時十五分ごろ厚木市旭町さきの相模川河川敷に米戦闘機が墜落炎上乗員二人のうち一名は死体で発見一名は不明という事故も報じられています。

日午前十時五十六分ごろ厚木基地を飛び立ったばかりの米艦載戦闘機F8が大和市上草柳二一七ノ四の館野鉄工所にぶつかり、畑地で炎上、鉄工所の工場と住居二棟が全焼、三棟全壊、近くの民家二棟の一部が損壊、死者四名重軽傷者四名というものでした。原因はエンジン事故による失速で、乗員は直前に脱出し、かすり傷だけだったようです。

当時の爆同会報（第十二号）によると厚木爆同は館野鉄工所の事故当夜、役員会を開き、翌九日抗議声明を発表、墜落事故に対する抗議ならびに基地の即時移転返還要求を内容とする街頭署名運動を展開、十一日には会員四十五人がバスで厚木基地司令官・首相・外相・防衛庁長官・施設庁長官に対する直接抗議要請行動をし、九月二十七日には臨時代議員会を開いて、「基地の即時移転・返還を基本目標とする」ことを確認しています。

米軍機工場に墜落 大和市 家族の三人が死亡

五人負傷 民家も燃える



▶F8米戦闘機の墜落現場（館野鉄工所）▶大惨事となった墜落事故を伝える新聞記事

▶事故を偲ぶ木製の塔

館野鉄工所経営者の館野正盛さん（当時四七才）は三人の息子とオイ一人を失って結局廃業。工場跡地は国が買い取り、今は空き地になっています。東名大和トンネル西の金網に囲まれた林の中に事故を偲ぶ木製の塔が立っています。木は劣化して字も読みにくくなっています。

一昨年、部品落下事故、昨年はヘリの墜落事故が起きています。事故から五〇年を期して、米軍機の墜落事故を風化させない動きを考えたいものです。

五〇年前の事故報道の載る新聞紙面には「東京五輪の聖火〇〇へ」とオリンピック景気を醸成する記事があふれていました。五輪招致で国民の人気を得た気であるうそつき右翼安倍に引導をわたす日を早期に実現しましょう。（情宣部・中坪 清）



綾瀬部品落下事故に抗議（米海軍厚木基地）



オスプレイ訓練の拠点となる「キャンプ富士」を視察

連続する米軍機事故

原因究明・再発防止迫り抗議行動

オスプレイの厚木基地飛来に対する不安が高まる中、昨年12月16日、厚木基地所属のヘリコプター（MH60S）が、三浦市三崎に墜落する大事故が起こりました。福島瑞穂参議院議員をはじめ厚木爆同・第四次訴訟団など県内



丸井南関東防衛局長（左端）に抗議文を手渡す

平和7団体は12月20日、南関東防衛局・丸井防衛局長に対し①事故の原因と飛行ルートを早期に究明し、住民の不安と恐怖を取り除く再発防止策を住民に示すこと、②原因が究明されるまで同機種（の飛行を止めること）などを強く迫りました。しかし丸井局長からは①人的被害はなかったが住民に不安を与え遺憾である、②同機種の安全点検を徹底するとの回答に留まりました。

ヘリ墜落事故の不安が消えない矢先の1月9日、今度は綾瀬市寺尾北の住宅密集地に米戦闘攻撃機（FA18E スーパーホーネット）の金属部品落下事故が起こりました。落下部品は駐車中の車の窓ガラスを突き破り、幸い人的被害はなかったものの一歩間違えば人命に関する重大な事故でした。

ここが気になる

46文書とは、1971年（昭和46年）12月に当時の防衛施設庁が大和市と綾瀬市に対して通知した「厚木海軍飛行場の海上自衛隊による共同使用について」という文書の通称で、昭和46年に通知されたことからその名がつけられました。

この文書では「ジェットエンジンを主たる動力とする飛行機は緊急やむを得ない場合を除き使用しない」と定めており、厚木基地における海上自衛隊機はこれまでプロペラ機のみでした。

厚木爆同は恐れていた事故が連続する事態を深刻に受け止め、1月10日、米海軍厚木航空施設・ウィーマン司令官に対し「事故原因の究明と公表、再発防止策と安全管理が徹底されるまで一切の飛行を中止すること」を強く申し入れ抗議しました。

しかし、昨年3月にこれまで運用されていたP3C対潜哨戒機の後継として、ジェット機である固定翼哨戒機P-1の配備が強行されました。これは明らかな46文書違反であり、約束を反故にしたこととなります。また、配

46文書とP-1問題

備から2ヵ月後の5月13日には、飛行試験中のP-1において4発全てのエンジンが停止するという墜落の危険を伴う重大な事故を早速引き起こしています。

P-1は開発段階から数多くの不具合を多発させており、厚木爆同はその

会員拡大に成果

―新会員歓迎会へ―

昨年の厚木爆同第53回定期代議員総会において、確認された運動方針の大きな柱の一つは、組織の強化にむけての新会員の拡大でした。

多くの会員が厚木爆同の趣旨に賛同し結集することによって、私たちの願いだである静かな空を取りもどすための活動に取り組むことができます。

この会員拡大は支部役員をはじめ、地域会員の皆様にご協力をいただきながら取り組んできたことにより、大きな成果をあげることができました。

昨年、厚木爆同に加入された会員は、55世帯となりました。今回加入された多くの会員の皆様とともに、力をあわせて行動していきましょう。

◆ ◆ ◆

新会員の皆様を歓迎する歓迎会を開催します。歓迎会では、最近の厚木基地情勢や厚木爆同の活動などについて

合を多発させており、厚木爆同はその都度安全性を危惧し、「不具合内容と対策の明確な情報公開および同機の厚木基地への配備撤回の申し入れ」を行ってきました。P-1のエンジン停止事故は起こるべくして起こったので

このように、軍用機が老朽化したからと言って今後も新規配備を繰り返すのであれば、騒音・爆音被害と墜落による恐怖は永遠になくならず、基地機能の強化、恒久化にもつながります。厚木爆同は「平和で静かな空を取り戻す」ためにP-1配備撤回に向けて全力で活動を展開してゆきます。

学習を深めていきます。

ぜひ、ご参加をお願い申し上げます。

日時 2月22日（土）午後2時

会場 大和市生涯学習センター 208室

連絡 厚木爆同事務所

Tel. 0462407450

会員の便り

米軍のキャンプ富士基地視察にご一緒させていただきました。ありがとうございます。ありがとうございました。

富士山は世界遺産になったとは言え、富士の広大な裾野にあの危険な実弾演習場があるなんて、とても不審と恐怖としか言えない現状をあらわに見て、怒りを再認識しました。

テレビ等で富士演習場とは何度となく聞いてはいましたが、現場を見たのは初めてでしたので、とても驚きました。何んせ雄大な富士山に手がとどくほどの場所から、本当に素晴らしい感動でした。

支部から こんにちは！

藤沢支部

夕日を浴びきらきら反射する艦載機、相模湾から戦闘機や軍用ヘリが厚木基地に向かう藤沢は玄関口です。見えぬ厚木基地、爆音被害は湘南海岸から北部まで広範囲なのです。米軍横須賀基地の存在、原子力空母母港化とも一体の関係です。

いまだ藤沢市民の間に厚木基地爆音防止期成同盟の活動が、十分に認

飛翔する自由を 人々に鳥たちに

知られている状況とは言えません。前藤田爆同委員長指導のもと、機能する支部体制へと二年半前に見直しを図り、小野間支部長を選出、動き始めました。

この間、藤沢支部独自の活動を

徐々に展開し、何とか厚木爆同の活動を市民の皆さんに知って貰えるように努めてきました。そのひとつが他の市民団体との共同「藤沢・不戦の誓い、平和行動」藤沢駅前街宣で、厚木爆同も市民にアピールしてきま

した。またオスプレイ配備に反対するチラシを二度作成、地域への配布活動や第四次厚木爆音訴訟の裁判「飛行差し止め」の署名活動も街宣で合せ取り組んできました。今後も街頭に出て、粘り強く市民に訴えたいと考えています。

藤沢支部の課題は厚木爆同会員の拡大、足元で藤沢市民の声を大きくしていくことが基地撤去「静かな空を取り戻す」近道と確信しています。小野間支部長を先頭に、他支部に追いつけるよう連携し活動を展開して参ります。

（木村 栄子）